

1 各部門の最優秀賞の講評

(1) 個人花壇の部（上級）

前庭に、階段状に鉢やプランター植えの草花が並べられ、花数の多さや全体のボリューム感が群を抜いていた。また、花色もピンク中心にまとめられ、春爛漫の装いも群を抜いていた。

この部門は装飾技術、栽培技術に長けた方が多く、玄関や庭先などの特徴に合わせた見応えのある花壇が多かった。

(2) 個人花壇の部（一般）

春から初夏の花を植えたプランターや鉢と花壇を組み合わせ、まとまった構成となっていた。日なたと日陰を上手に使い分けた装飾と、栽培する技術には感心した。

(3) 共同花壇の部（上級）

大面積の花壇が多く、草花数の確保や管理の手間の大変さを感じる。その中でも、最優秀花壇は細かく区画されたスペースに色々な草花を使って、細やかに装飾されているのが素晴らしかった。

購入苗より自分達で種から育てた草花が多く使われていたことにも、担当者の細やかな心遣いと努力を強く感じた。

(4) 共同花壇の部（一般）

余裕をもって植栽された草花の一つ一つが、気持ちよく生育されていた。花壇周りにある芝生の緑色を活かした花色の配色、デザインがバランス良く構成されていた。

(5) 保育園・学校花壇の部

今年は、雨や気温などの気候変動による徒長、病気の発生が目立つ中、最優秀校の花壇は予防のための花がら摘み、草引きなどの管理努力が見られた。花壇の構成では、後ろに丈の高い草花を植栽して立体的にデザインされ、配色共に良かった。

2 総評

今年は、春の急激な気温上昇や風雨によって、チューリップの花散りやパンジーの間伸び、中には病気（灰色カビ病など）の発生などの障害が多く見られた。株間を広めに植栽し、花がら摘みがこまめに行われた花壇では見事に開花が揃っていたので、日頃の手入れが結果を左右した面もあると思われる。

草花の育て方も様々で、良い花苗を購入して立派に育った花を飾ったり、自家採取した種を蒔いて手間暇かけて育てたりと、一人一人異なる花飾りに対する想いがあると感じた。

一人の花飾りが近隣の方々に波及し、その一角が花のあるまちになっている風景もあり、花飾りを通して人の輪が広がり、住み良いまちが生まれているように感じる。

令和8年（2026年）4月17日

審査員

名古屋市みどりの協会 緑の相談員 谷澤 隆
梶田 靖